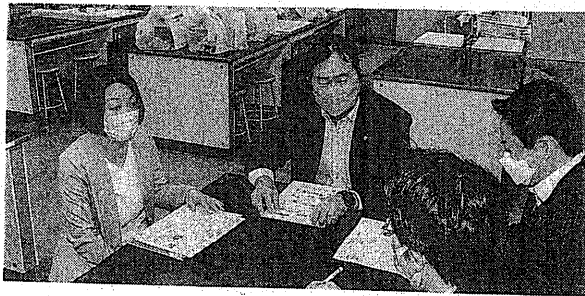


白糠産シソで認知症予防



町や室工大など12機関

来月から食品開発

【白糠、室蘭】室蘭工業大や釧路管内白糠町など計12機関は、11月から同町内で、町特産のシソなどに含まれる成分を活用し、アルツハイマー病を予防する食品開発などのプロジェクトに乗り出す。12機関は道や北大、総合化学メーカーのカネカ（東京）、NTT東日本（同）など多分野にまたがり、プロジェクトを通して新産業創出や人材育成につなげる。

（佐竹直子）

プロジェクトは文部科学省所管の科学技術振興機構の「共創の場形成支援プログラム」に採択された。室工大は2015年、町産のシソの成分にアルツハイマー病の発症を抑える可能性があると突き止めた。18年にはリウマチや心臓病など、加齢性の疾患を抑制する成分を計測するシステムを開発。企業から問い合わせが相次ぎ、今回のプロジェクトにつながった。

室工大はシソ以外にも町内の200種類の植物を調べ、アルツハイマー病の抑制に効果があるとみられる植物を数種類確認していたが、製品開発のノウハウがなかった。プロジェクトには食品会社も加わり、健康効果が高い特産品の開発を目指す。開発の過程は交流サイト（SNS）で発信し、地元食料のPRを図る。

開発拠点は来年度、白糠高の空き教室に開設し、生徒に栽培実験に関わってもらう。道教委などによると、道内公立高校に大学が研究拠点を設けるのは初めて。プロジェクトリーダーで、室工大の徳薬清孝教授（生物化学）は「町内で積み重ねてきた研究成果も合わせて、新産業の創出や若者の育成につなげたい」と話す。

白糠高の空き教室で、プロジェクトの打ち合わせをする室工大の徳薬清孝教授（左から2人目）